

暦の上では立春が過ぎ、だんだん日も長くなり雪解けが待ち遠しい今日この頃です。

今回は、「浪岡ダム」についてです。

主要地方道青森浪岡線を高田方面から青森空港に向かうと、空港の手前を二手に道路が分かれ、左手の上り下りの山道を約6キロメートル行くと、ダム湖に赤い取水塔が目じるしの浪岡ダムが見えます。



赤い取水塔
(ダムに水がある状態)



赤い取水塔
(工事のため水抜状態、2014年撮影)



浪岡ダムのダム名碑
(表面)



ダム名碑の裏面
(「浪岡ダム及貯水池の概要」)

浪岡ダム事業地区は、岩木川右岸の五所川原市、板柳町、旧常盤村（現藤崎町）及び浪岡地区にわたる約3,140ヘクタールの水田単作地帯です。この地帯の主な用水は、十川及びその支流の浪岡川を水源としており、梵珠山麓の台地付近は、大小無数の溜池を水源としていました。十川、浪岡川に設けられた29の取水堰のほとんどと小溜池は老朽化が激しく、維持管理に多くの労力と経費がかけられていました。また用水不足のため地区内の水路は、排水を反復利用するため堰上げによる取水が多く、水田の80パーセントまでが湿田の状態、基礎整備を進めることができず、近代営農形態を導入する障害となっていました。

そこで浪岡ダムは農業経営の近代化導入のため、国営事業として浪岡地区王余魚沢字
かたことやもり
片子都谷森に建設、王余魚沢川から取水することとしました。



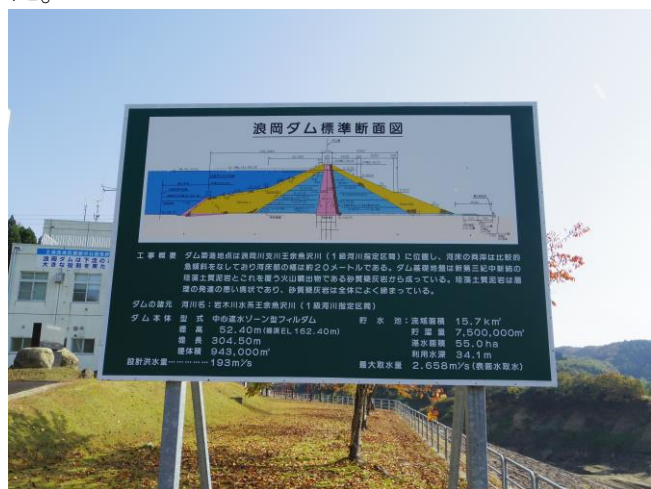
浪岡ダム概要説明板



水利使用標識板

昭和46年(1971)10月に浪岡川農業水利事業所の開所、昭和49年9月24日ダム工事発注、
昭和57年11月10日竣工、昭和59年4月より^{たんすい}湛水開始、平成元年(1989)3月31日に浪岡川
農業水利事業の完成となりました。

この浪岡ダムの完成によって、用水源が確保され、これまでの用水堰は統合されました。また、
農業生産基盤が整備されたことで大型機械の導入を可能にし、労働生産性の向上が期待されまし
た。



浪岡ダム標準断面図説明板



工事中の浪岡ダム(2014年撮影)

なお、この事業実施中の昭和49年9月と昭和52年8月に集中豪雨があつて、地区内の既存の
土地改良施設は多大の災害を被りました。このため一部の工事は浪岡川災害復旧助成事業として
国と県が共同事業として行いました。

また、事業竣工の翌年昭和58年5月26日11時59分、男鹿半島北西沖を震源とするマグニチ
ュード7.7の日本海中部地震にみまわれましたが、浪岡ダムは、耐震的構造により安全性に問題
はありませんでした。浪岡ダムは、いろいろな局面を乗り越えて造られたのですね。

※今回のトリビアは、『浪岡町史』通史編第4巻等を参考にしました。



浪岡ダム管理事務所



浪岡ダム